

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第 80 号(2023 年 12 月 1 日)

LET 九州・沖縄支部事務局発行

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1

熊本学園大学 研究棟 302 号

林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表)

E-mail: secretariat@j-LET-ko.org

編集: 林千晶・竹野茂・事務局

December 2023 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 80

Table of Contents

・ 第 50 回 (2023 年度) 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究大会のご報告	(愛知教育大学 高橋 美由紀) 1 頁
・ 2023 年度 LET 九州・沖縄支部研究大会ワークショップを受講して	(福岡大学大学院生 石橋領仁・神谷祥之介) 3 頁
・ 外国語教育メディア学会第 62 回(2023 年)度全国研究大会報告	(宮崎公立大学 宮内 なぎさ) 5 頁
・ 2023 年度外国語教育メディア学会理事会報告	(九州・沖縄支部副支部長 植田 正暢) 6 頁
・ 2023 年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部総会報告	(九州・沖縄支部支部長 長 加奈子) 9 頁
・ 事務局からのお知らせ	(事務局長 林 幸代) 16 頁
・ 編集後記	17 頁

第 50 回(2023 年度)外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究大会に参加して

高橋 美由紀 (愛知教育大学・LET 中部支部)

2023 年 6 月 10 日 (土) 福岡大学にて「Z 世代のデジタルリテラシーを活かした外国語教育—ポスト Z 世代を視野に入れて—」をテーマに開催された九州・沖縄支部大会に研究発表・参加させて頂きました。随所に主催者の先生方の「アットホ

ームな雰囲気」が見られ、他支部からという違和感もなく九州・沖縄支部の先生方と一緒に学び、発表し、交流会にも参加させて頂いたことに感謝しています。プログラムの内容はもとより、久しぶりに九州・沖縄支部の先生方と対面でお会

いできる研究会ということもあり、研究発表の準備から私のテンションは高くなっていました。



研究会場に一步踏み入れた時に、学会活動等でお世話になっている先生方に声をかけて頂き、懐かしい、故郷に帰ってきた気持ちになりました。新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になったことで、親しくさせて頂いている先生方に、こうして対面でお会いできたことはとても嬉しく思いました。研究会は、今井孝治先生（東福岡高等学

校）のワークショップをはじめとし、シンポジウムではコーディネーターの麻生雄治先生（大分大学）、小・中・高等学校のパネリストの先生方及び、会場の先生方との議論などを終始和気あいあいとされており、参加者全員が充実感・満足感を持つことができる内容だと思いました。

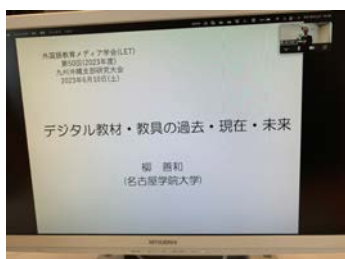
意見交換会（懇親会）においても、九州・沖縄支部の先生方の暖かい「おもてなし」を感じました。

キャンパス内とは思えない程の豪華な美味しいお料理等と、楽しいご挨拶、学生・教員・研究者・展示企業の様々な立場の人々が、気兼ねなく、自分の考えを話すことができる「心地よい場」として、有意義な時間を過ごすことができたと思いました。

このような機会を頂けたことに対して、九州・沖縄支部支部長の長先生をはじめとし、事務局長の林先生他多くの先生方にお世話になりましたことをここにご報告申し上げますとともに、九州・沖縄支部の会員の先生方に感謝いたします。今後も支部の垣根を越えて、一緒に研究、発表ができる機会がもっと持てたら！と思っています。

支部研究大会講演

柳善和先生（名古屋学院大学）



支部研究大会シンポジウム



支部研究大会情報交換会

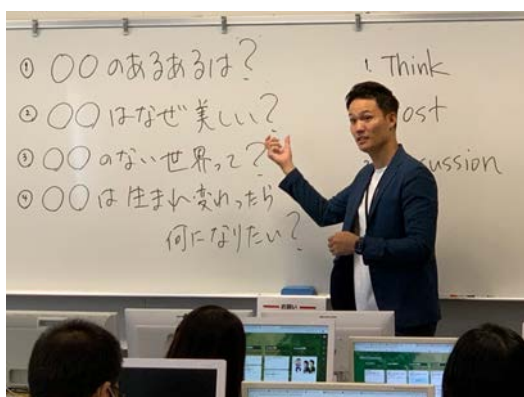


(木下正義名誉支部長)

(大津敦史大会実行委員長)

2023 年度 LET 九州・沖縄支部研究大会ワークショップを受講して

石橋 頌仁（福岡大学大学院生）



2023 年 6 月 10 日に実施されたワークショップ「生徒のエンゲージメントを高める ICT 利活用」（今井孝治先生：東福岡高等

学校）を受講させていただきました。このワークショップでは、オンライン掲示板アプリ「Padlet」を用いた授業の進め方について学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回のワークショップで紹介された「Padlet」は、一言で言えば Twitter や Instagram、Facebook などの SNS アプリの教育活用バージョンのようなものです。このアプリを通して、学生たちは自分の意見を英語で発信し、受け取ったコメントへの対応ができるようになっており、主体的に、且つ意欲的に学

ぶことができるようになっていきます。それに加え、UI デザインが現代の主流なアプリに類似しているため、直感的に操作が可能であり、今井先生の丁寧で分かりやすい指導も相まって、ワークショップが終わる頃には自分自身で大体の活動を行うことができるようになりました。講師の今井先生は、有益ではあるけれど少しとっつきにくいツールを、分かりやすく順序立てて説明くださり、自身の授業への応用の方法もイメージすることができました。また

ワークショップが開催されるのであれば、是非参加させていただこうと思います。



第 50 回 LET 九州・沖縄支部研究大会ワークショップを受講して

神谷 祥之介（福岡大学大学院生）



今回のワークショップでは、講師の今井孝治先生（東福岡高校）が実際に使用されているオンライン掲示板アプリ

“Padlet” の英語学習への活用方法をご紹介いただきました。このアプリは SNS のような感覚で気軽に扱うことができるもので、ワークショップでは参加者一人一人が自分のアイデアや回答をクラス全体へ向けて投稿し、それを教員側で集計・提示することで参加者間のコミュニケーションを活性化する方法をご教授い

いただきました。この体験を通して、私は Padlet を使用した意見交換は従来のように手を挙たり当てられて発表することよりも心理的なハードルが低く、何より“楽しい”と感じました。また、このアプリは初めて使う人にも分かりやすく、直感的に扱えるため、スマホを手足のように駆使する現代の高校生・大学生にはもちろん、教員側にとっても講義への導入障壁が低いという点もとても魅力的と考えられます。アプリに関してだけでなく、本ワークショップの講師であった今井先生のクラスの雰囲気作りや丁寧な説明の仕方からもたくさん勉強させていただきました、私にとって非常に有意義な時間を過ごすことができました。今後はこのワークショップで得た事を活かし、学生一人一人が主体的に、楽しく学べるような講義を展開できるように精進したいです。ありがとうございました。

外国語教育メディア学会(LET)第 62 回全国研究大会に参加して

宮内 なぎさ(宮崎公立大学)



(開会挨拶をする森田彰 LET 会長)

外国語教育と「技術革新」：変わるもの、変わらないもの、を大会テーマにした上記の研究大会が、今年の8月7日(月)～9日(水)にかけて早稲田大学戸山キャンパスにて実施された(対面)。

今回参加させていただいた大きな理由は、ワークショップの内容が充実していたことである。特に統計分析手法に関しては、元々理数系の学力が乏しい私のような新米の研究者にとっては本を読んだだけでは理解が難しく、対面で教えていただけるこのようなワークショップは大変有難い機会であった。

ワークショップは8月7日(月)の午後に3つのカテゴリーに分けて9プログ

ラムが実施された。私は①「質的研究における事例研究の方法論」、②「学習者データを「見る」：外国語教師のためのデータの入力、分析、解釈方法」、③「ベイズ統計超入門(再演)」を受講した。ほぼ全てのプログラムともに満員御礼で、それぞれの専門家から質的・量的分析法に関しての知見をいただいた。その時は「なるほど」と思い、その後すぐに関連書籍も購入したが、残念ながら積読状態になっている。学んだことをどう自分の研究に今後どう活かしていくかが、自分の課題である(冬休み中にじっくり読もうとは思っている)。

2日目の8月8日(火)から9日

(水)にかけては、研究発表・実践報告、基調講演等が予定されており楽しみにしていたが、ここですと懸念していたアクシデントが起こった。台風の影響によるフライトのキャンセルである。実は上京前も大型台風接近のため1日早く出発したのだが、今度はさらに帰りの便が別の台風接近の影響で急遽キャンセルになった。ずっと航空状況はチェックしていたが、ぎりぎりまで欠航が不確定だったため、大丈夫だろうと判断していた。しかし8月8日(火)の昼にたまたま航空状況を再確認すると、いきなり「欠航」の文字が目飛び込んできたため、急遽8日(火)の研究発表・実践報告を午前中で退出せざるを得なくなっ

た。午後は東京駅でフライトキャンセルの対応等に追われ、結局陸路で翌日 9 日（水）に東京一大分まで行き、陸路の JR も運休になったため大分で一泊、翌日も始発から JR が宮崎まで運休となり途方にくれた。幸い家族が大分在住だったため、延岡駅まで車で送ってもらい、延岡から宮崎に夕方帰着した。元々は 3 泊 4

日の今回の旅行計画が、5 泊 6 日になってしまった。

全国の学会開催は夏が多いが、自然災害（特に台風）は予測できないため、なかなか参加が難しいと感じた今回の旅程だった。しかし、ワークショップで得たことをはじめ、参加された全国の研究者の向学心にも大変感銘を受けた大会であった。



（大会実行委員長淡路先生）



（学術賞受賞の中田先生）



（論文賞受賞代表の峯松先生）

2023 年度理事会報告

副支部長 植田正暢（北九州市立大学）

2023 年度第 62 回全国研究大会の開催に合わせ、2023 年 8 月 7 日に理事会が対面で開催されました。理事会は森田彰会長の挨拶から始まり、理事会内規に則り、次年度全国研究大会担当支部である中部支部の西尾支部長が議長として選出され、議事が進められました。以下では審議事項および報告事項から重要なものを取りあげてご報告します。そのため本部および各支部の 2022 年度事業

報告・決算報告ならびに 2023 年度事業計画・予算案、各委員会からの 2022 年度活動報告、2022 年度第 61 回全国研究大会決算報告については割愛します。

なお、ここで用いる見出し番号は実際の議案番号と異なることをご了承ください。

<審議事項>

1) 会長選挙

理事会内規第 11 条に則り、会長選挙が行われた。1 回目の投票結果で過半数を超えた森田彰理事（現会長）が再選した。

2) 本部納入金の負担割合の見直しについて

本部の財政状況が改善されたため、各支部からの本部納入金の負担割合を 18%から 15%に引き下げることが決定した。

3) 2023 年度各支部の本部納入金額の算出について

2) の承認により本年度の負担割合は 15%とした上で、本年度の各支部から本部への納入金額が提示された。審議の結果、原案通り承認された。九州・沖縄支部は 2022 年度の一般会費収入 627 千円の 15%である 94 千円（千円未満切り捨て）を本部に納入する。

4) 全国大会発表申し込みの際の発表申し込み資格と発表資格について

関西支部より、全国研究大会発表を希望する新規登録者の「発表申し込み資格」と「発表資格」に関する提案がなされた。審議の結果、全国研究大会の発表募集を機に会員になることを希望する新規登録者については、①発表申し込み時には、申し込みに必要な会員 ID の取得のみとし、会費の支払いは求めない、②大会参加事前登録までに、大会開催年度の会費を発表者全員が納入することを求める、の 2 点が承認された。なお、ID の取得方法については、現在のシステムでは

自動的に登録時の年度の入会案内が送付されてしまうため、システムの変更を含めて検討することになった。

5) 今後の全国研究大会のあり方検討グループの設置について

「全国研究大会のあり方検討グループ」を設置し、①現在の全国研究大会の運営体制の見直し、②国際化に伴う懸念事項の払拭、③現在の体制における担当支部間での不統一の解消、を検討することが本部事務局より説明された。審議の結果、資料の「構成員」を「各支部長（4 名）、全国研究大会実行委員経験者（各支部 1 名計 4 名）」に変更した上で、グループを設置することが承認された。

6) 支部会則の改定について

本部事務局より支部会則の改定について説明があった。現在の支部会則は 4 支部共通のもので最小限の条項しか規定されていないため、種々の手続き等をする際に不備が指摘される事例が出てきている。また、支部会則の変更には理事会の議決、総会の承認が必要になっており、支部の都合により適宜変更することができない。これらの問題点を解消するため、必要な条項を追加した共通フォーマットを作成し、変更の手続きを支部運営委員会と支部総会に移管することが提案された。審議の結果、現在の支部会則の廃止と共通フォーマットの作成が承認され、新支部会則制定のスケジュールが確認された。

7) 学会機関誌投稿規程の改訂について

機関誌編集委員会より第 10 条にある「本誌に掲載された論文等の著作権はその副次的使用権を含め、全て本会が所有する。」を「本誌に掲載された論文等の著作権は全て本会が所有する」に変更することについて説明があり、承認された。

8) 2024 年度第 63 回全国研究大会の開催について中部支部より第 63 回全国研究大会の説明がなされた。審議の結果、会場校の都合により変更される可能性があることを了解した上で、以下の日程と会場が了承された。

日程：8 月 6 日（火）～8 日（木）

会場：名古屋学院大学名古屋キャンパス
しろとり

<報告事項>

1) 本部報告

- ・2023 年度本部役員について

2023 年度本部役員は 2 年任期の 2 年目ということで大きな変更点はないが、本部の幹事（Newsletter）担当に関東支部の朝熊悠委員が加わったことが報告された。

- ・2023 年度正会員数および賛助会員について

2023 年度正会員数が報告された。ここ数年の減少傾向は変わっておらず、合計で

1006 名となった。また、賛助会員は合計で 27 社であることも報告された。

- ・学会機関誌 60 号の発行について
- 学会機関誌 60 号の発行が、8 月末から 9 月になる見通しであることが報告された。

2) 2025 年度以降の全国大会開催予定について

本部事務局より現在の開催方法が維持された場合の 2024 年度～2029 年度までの全国研究大会担当支部が示された。開催予定案に従うと、九州・沖縄支部は 2027 年度第 66 回全国研究大会を担当することになる。

3) 2024 年度支部選出理事の割当て数について

本部事務局より 2024 年度支部選出理事の各支部割り当て人数は、関東支部 10 名、中部支部 5 名、関西支部 10 名、九州・沖縄支部 4 名、本部 2 名の計 31 名となることが説明された。

4) その他

森田会長より、機関誌を Scopus に登録する作業を本格化させるために、業務担当者として嶋田和成会員（足利大学）に依頼する予定であることが報告された。

以上、ご報告いたします。

2023 年度支部総会報告

支部長 長 加奈子（福岡大学）

第 50 回支部研究大会が対面で開催されたことに伴い、2023 年度の支部総会は、久しぶりの対面での開催となりました。以下、総会の報告をさせていただきます。

I. 議事

第 1 号議案：2022 年度事業報告・決算・監査報告について

2022 年度支部事業として、以下のように報告され承認されました。

1) 2022 年度事業報告

【別紙参照①事業報告案】

2022 年度支部決算報告書が報告され、また併せて監査の報告がなされ承認されました。

2) 2021 年度決算報告

【別紙参照②決算報告案】

第 2 号議案：2023 年度事業計画・予算について 2023 年度支部事業計画案が以下のように提案され、承認されました。

1) 2023 年度事業計画

【別紙参照③事業計画案】

2023 年度支部予算案が提案され、承認されました。

2) 2023 年度予算

【別紙参照④予算案】

第 3 号議案：支部紀要投稿規定の改正について支部紀要の投稿形式について、これまでの郵送投稿からメール投稿に変更することが提案され、投稿規定の第 5 条の改定が提案され、承認されました。

【別紙参照⑤投稿規定改定案】

II. 報告

1. 2024 年度支部研究大会開催校について

第 51 回支部研究大会は、熊本学園大学もしくは熊本市内の公共施設にて開催予定であることが報告されました。開催日時等については、2023 年度第 2 回支部運営委員会で協議を行い、その後、支部会員へ報告することとなっております。

2. 2022-2023 年度支部役員の一部変更について

既にメール稟議によりご承認いただいた内容である会計監査の交代（学会退会に伴う役員資格喪失）について報告されました。

松崎徹先生（筑紫女学園大学）

→ 新田よしみ先生（福岡大学）

【別紙参照①事業報告案】 2022 年度 九州・沖縄支部 事業報告(案)

1. 開催行事関連

1) 支部大会

LET 九州沖縄支部第 49 回研究大会
(オンライン開催)

日時:2022 年 6 月 25 日(土)

大会テーマ: 英語表現力育成を目指した
授業改善

講演:「明日の授業に活かす『意味順』英
語指導--文法指導の体系化を目指して--」

田地野 彰先生(名古屋外国語大学)

シンポジウム:「英語表現力育成を目指し
た授業改善」

コーディネーター兼パネリスト 1:

麻生 雄治先生(大分大学)

パネリスト 2:

吉永 早紀子先生(中津市立中津中学校)

パネリスト 3:

三浦 宏昭先生(大分県立大分上野丘高等
学校)

ワークショップ:「ICT を活用した英語授
業改善の取り組み」相原 勝斗志先生(長
崎県立佐世保西高等学校)

2) 学術講演会・ワークショップ

LET 九州・沖縄支部 2022 年度ワークシ
ョップ

日時: 2023 年 3 月 18 日(土)

場所:福岡大学 A 棟 8 階 A803 教室

題目:「高校生の見方・考え方の hole を
埋める―高校英語のライティングとディ
ベート授業実践―」講師:坂口寛子先生
(福岡県立春日高等学校)

2. 支部総会:

書面にて開催

2022 年 7 月 13 日(水) 議決権行使書締
め切り

2022 年 7 月 15 日(金) 開票および集
計。その後、メールにて結果報告。

3. 出版・広報関:

LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2022 年 6 月 6 日 第 77 号発行

2022 年 11 月 1 日 第 78 号発行

4. 運營業務関連

第 1 回運営委員会 2022 年 6 月 11 日
(土) オンライン開催

第 2 回運営委員会 2022 年 11 月 5 日
(土) オンライン開催

第 3 回運営委員会 2023 年 3 月 18 日
(土) 対面開催

5. 研究部門関係 なし

6. 支部紀要

2023 年 3 月 1 日 第 23 号発行

7. 支部賞

2022 年度外国語教育メディア学会(LET)
九州・沖縄支部学術賞

外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄
支部奨励賞 該当なし

外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄
支部論文賞 該当なし

8. その他 なし

【別紙参照②決算報告案】

2022年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 決算報告書（案） 2023年3月31日

自2022年4月1日～至2023年3月31日

項 目	予 算 額	決 算 額	内 訳
前年度繰越金	514,148	514,148	
一般会費	627,000	597,000	個人会費 @6,000×88件、@6,000×2件 2023年度分前受 × 90件 540,000 学生会費 @3,000 × 5件 15,000 団体会費 @6,000×6件、@6,000×1件 2023年度分前受 × 7件 42,000 過年度の会費 個人会費 @6,000 × 5件（2021年度分） 30,000 学生会費 @3,000 ×
雑収入	147,000	147,000	1. 展示協賛金 × 0 2. 広告掲載料 × 5件 75,000 3. 研究集録売上 × 0 4. 学会当日会費 × 1,000 5. 利息 0 6. 紀要執筆料 3件(23号) 71,000 7. 寄付金 8. その他
収益 計 (①)	774,000	774,000	
全国研究大会準備金	1,000,000	1,000,000	
支部運営基金(資産)	1,200,000	1,200,000	
収入 計 (③)	3,488,148	3,488,148	

費 目	予 算 額	決 算 額	内 訳
印刷費	320,000	299,915	支部紀要印刷 241615円、J-stage 掲載委託 23,100円、封筒印刷 35200円
通信費	70,000	55,736	レターパック、切手等
ネットワーク関係費	0	0	
旅費交通費	100,000	37,310	運営委員会旅費補助分 36,170円、学術講演会講師交通費 1,140円
業務委託費	50,000	48,039	
会議費	10,000	6,900	
支部大会開催費	168,000	166,577	支部大会 合計 166577 会場費 0 印刷費 28166 通信費 38776 旅費交通費 0 謝礼 50000 雑給 9240 懇親会費 0 大会準備金 30000 支払手数料 825 雑費 9570
研究部会活動費	0	0	
雑給	20,000	20,000	事務局謝礼
謝礼費	20,000	10,000	学術講演会講演謝礼
交際費	0	0	
事務用品費	10,000	4,838	
消耗品費	10,000	0	
支払手数料	5,000	605	
広告宣伝費	5,000	0	
支部分担金	117,000	117,000	前年度会費納入額(654,000円) × 18% (千円未満は切り捨て)
雑費	10,000	4,000	学術講演会教室使用料
全国大会開催費	0	0	
全国研究大会準備金への積立金	0	0	
支部運営基金(資産)への積立金	0	0	
費用 計 (②)	915,000	770,920	
全国研究大会準備金	1,000,000	1,000,000	
支部運営基金(資産)	1,200,000	1,200,000	
支出 計 (④)	3,115,000	2,970,920	

当期利益		
【収益(①)－費用(②)】	△ 141,000	3,080
次年度繰越金		
【前年度繰越金＋当期利益】	195,914	517,228

当期収支		
【収入(③)－支出(④)】	373,148	517,228

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部	以上、報告します。
事務局長	林 幸代 (林)
会計監査	川島 嘉美 (川島)
	以上、相違ありません。
	会計監査 新田 よしみ (新田)

【別紙参照③事業計画案】 2023 年度 九州・沖縄支部 事業計画（案）

1. 開催行事関連

1) 支部大会

LET 九州沖縄支部第 50 回研究大会

日時：2023 年 6 月 10 日（土）

会場：福岡大学（〒814-0180 福岡市城南
区七隈 8 丁目 19-1）

大会テーマ：Z 世代のデジタルリテラシーを活かした外国語教育—ポスト Z 世代を視野に入れて—

講演：「デジタル教材・教具の過去・現在、未来」柳 善和 先生（名古屋学院大学）

シンポジウム：「Z 世代のデジタルリテラシーを活かした外国語教育—ポスト Z 世代を視野に入れて—」

コーディネーター：麻生 雄治 先生（大分大学）

パネリスト：河村 昌宏 先生（小郡市立立石小学校）

宮西 紀生 先生（佐賀県立香楠中学校）

松村 友美 先生（長崎県立長崎北高等学校）

ワークショップ：「生徒のエンゲージメントを高める ICT 利活用」

今井 孝治 先生（東福岡高等学校）

2) 学術講演会・ワークショップ

2024 年 3 月（予定）

2. 支部総会

2023 年 6 月 10（土）開催

3. 出版・広報関係

LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2023 年 5 月 26 日 第 79 号発行

2023 年 11 月 1 日 第 80 号発行

4. 運營業務関連

第 1 回運営委員会ハイフレックス開催

第 2 回運営委員会

第 3 回運営委員会

2023 年 5 月 20 日

2023 年 9 月

2024 年 2 月

5. 研究部門関係 なし

6. 支部紀要

2024 年 3 月 1 日第 24 号発行

7. 支部賞

外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部学術賞

該当なし

外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部論文賞

該当なし

8. その他なし

【別紙参照④予算案】

2023年度 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 予算（案） 2023年4月1日

2023年4月1日～2024年3月31日

項 目	予 算 額	内 訳
一般会費	618,000	個人会費 @6,000 × 93件 558,000 学生会費 @3,000 × 8件 24,000 団体会費 @6,000 × 6件 36,000
雑収入	290,000	展示協賛金 @20,000 × 5 100,000 広告掲載料 120,000 支部紀要売上 学会当日会費 @1,000 × 10 10,000 支部紀要執筆料 60,000 その他 0
収益 計 (①)	908,000	
繰越金	517,228	
全国研究大会準備金	1,000,000	
支部運営基金(資産)	1,200,000	
収益 計 (②)	3,625,228	
費 目	予 算 額	内 訳
印刷費	330,000	支部紀要印刷、J-Stage登録 270,000 支部紀要発送代行 30,000 支部封筒印刷 30,000
通信費	70,000	
ネットワーク関係費	0	
旅費交通費	200,000	
業務委託費	50,000	
会議費	10,000	
支部大会開催費	280,000	実行委員会準備金 30,000 印刷費 20,000 通信費 30,000 旅費交通費 60,000 謝礼 55,000 雑給 12,000 懇親会費 0 飲食費 40,000 事務用品費 0 会場費 24,000 手数料 0 その他 9,000
研究部会活動費	0	
雑給	20,000	
謝礼費	20,000	
事務用品費	10,000	
交際費	0	
消耗品費	0	
支払手数料	5,000	
広告宣伝費	5,000	
支部分担金	112,000	2022年度会費納入額 627,000×18%
雑費	20,000	
全国研究大会開催費	0	
全国研究大会への積立金	0	
支部運営基金(資産)への積立金	0	
費用 計 (③)	1,132,000	
次期繰越	293,228	
全国研究大会準備金	1,000,000	
支部運営基金(資産)	1,200,000	
費用 計 (④)	3,625,228	

【別紙参照⑤投稿規定改定案】

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 支部紀要 投稿規定(改定案)

第1条 本規定は、外国語教育メディア学会九州・沖縄支部(以下、本支部)の紀要(以下、本誌)の投稿に関して定めたものである。

第2条 本誌へ投稿する者は、本支部会員であり、投稿時年度の会費を納入済みでなければならない。但し、共著者として他支部会員を執筆者の過半数を超えない範囲で加えることができる。

第3条 投稿できる研究論文、実践報告およびその他の報告(研究ノート、教材解説、書評等)は未公刊のものに限る。

2 研究論文、実践報告およびその他の報告(研究ノート、教材解説、書評等)の別は執筆者が投稿申込時に指定することとする。

第4条 投稿する原稿は、以下に定める様式、および外国語教育メディア学会ホームページ上のテンプレート・チェックリストに従って執筆されなければならない。

1) 和文・英文とも横書きとし、A4 縦白色の用紙に、天地左右の余白をそれぞれ 3 センチとする。使用する書体は、原則として和文の場合「明朝体」、英文の場合「Times (New Roman)」とする。文字の大きさは和文の場合 10.5 ポイント、英文の場合 12 ポイントし、1ページの行数を 35 行とする。和文の場合は1行 40 字とする。

2) 投稿原稿の書式は、特に指定のない限り、

Publication Manual of the American Psychological Association (最新版)に従うこととする。

3) 本文で使用する言語に関わらず、200 語以内の英文の要約を付けるものとする。

4) その他の論文中の書式については、本会ホームページ上のテンプレートに従って執筆する。

5) 図・表(写真など)は本文中に入れる。白黒印刷されるため、カラー印刷を避けるとともに、フォントサイズに留意する。

6) 投稿される論文等の原稿は 15 ページ以内を基準とし、20 ページを上限とする。ただし編集委員会が特に求めた特殊な原稿はこの限りではない。

第5条 投稿者は当該年度の 10 月末日 24 時までに、本支部ホームページ上の指示に従って原稿を提出しなければならない。提出原稿は MS Word 形式、および PDF 形式で保存した2つのファイルを提出する。

2 投稿論文送付にあたり、別紙に、「研究論文」、「実践報告」あるいは「その他の報告」の投稿原稿の種別、住所、氏名、所属、連絡先の電話・FAX 番号、メールアドレスを記入して、原稿と共に編集委員会宛に提出する。

第6条 投稿原稿は、査読者(以下、査読担当者)による査読審査を経て、査読内規に基

づき編集委員会において掲載可否が決定される。

第 7 条 審査結果は編集委員会より提示された期日までに編集委員会より執筆者あるいは執筆代表者に通知する。

2 編集委員会によって修正を求められた場合、あるいは再審査と判断された場合は、所定の期日までに修正原稿を提出しなければならない。その際、査読担当者からのコメントへの対応を列挙したもの(書式自由)を併せて提出する。

第 8 条 本誌に掲載された論文等の著作権はその副次的使用権を含め、全て本支部が所有する。

2 本誌に掲載された研究論文・実践報告等を、本支部の許可なく無断で複製あるいは転載することはできない。複製あるいは転載する場合は、本支部ホームページ上の書式に従って申請を行わなければならない。

第 9 条 投稿論文のもととなる研究は、日本学術振興会の『科学の健全な発展のために誠実な科学者の心得』(2015 年)を踏まえ

たものでなくてはならない。

第 10 条 掲載論文の投稿者には、掲載版 PDF 原稿、および執筆者数に関わらず 1 本につき 20 部の抜き刷りを贈呈する。贈呈分以上の印刷が必要な場合は、執筆者の負担とする。

第 11 条 印刷に際し特別に費用を要する原稿については、執筆者の負担とする。

第 12 条 投稿に関する通信は全て編集委員会事務局宛とする。

2 編集委員会事務局は、掲載可否判定に関する問い合わせには応じない。

第 13 条 本規定の変更は、運営委員会の三分の二以上の議決を経た後、総会の承認を得なければならない。

附 則

この規程は、2020(令和2)年 7 月 25 日から施行する。

この規程は、2023(令和5)年 6 月 10 日から施行する。

事務局からのお知らせ

【新会員（2023 年 11 月 1 日現在）】

＜正会員・個人会員＞

島田千秋（福津市立福間南小学校）

朝美 淑子（大分大学）

山下 真一（福岡女子商業高等学校）

Lee Saeun（熊本県立大学）

坂田 直樹（熊本学園大学）

河村 昌宏（小郡市立立石小学校）

早瀬 沙織（宮崎大学）

【2023 年度ワークショップ】

今年度は 2024 年 3 月に開催予定です。

詳細が決定いたしましたら、メーリングリストや支部 HP にてお知らせいたします。

【LET 九州・沖縄支部第 51 回支部研究大会】

日時：2024 年 6 月 8 日（土）

場所：熊本学園大学

大会テーマ：AI と外国語教育の共存

詳細が決定いたしましたら、メーリングリストや支部 HP にてお知らせいたします。

【2024 年度 LET 全国研究大会】

次年度（2024 年度）の LET 全国研究大会は中部支部担当で、以下の通り予定されています。（会場校の都合により変更の可能性あり）

日程：8 月 6 日（火）～8 日（木）

会場：名古屋学院大学

名古屋キャンパスしろとり

詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。

【会費納入のお願い】

2023 年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されております。まだお振り込みいただいていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします（個人会員・団体会員は 6,000 円、学生会員は 3,000 円）。

未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

＜LET 本部＞ <http://www.j-let.org>

＜LET 九州・沖縄支部＞

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江 2 丁目 5-1 研究棟 302 号

熊本学園大学

林幸代研究室

編集後記

まず始めに、編集委員林千晶先生の中心的なご尽力と事務局の林幸代先生の強力なサポートにより支部だより 80 号をお届けできますことを感謝いたしたいと思います。

今号で LET 九州・沖縄支部「支部だより」は 80 号を迎えました。数多くの会員の皆様に原稿をお寄せいただきてきました。支部だより 1 号から年 2 回の紙媒体での会員への配布という形で始まりました。インターネットの普及に伴いホームページの活用と経費節減のための方策として、PDF での配布に変わり、そして支部ホームページを利用する会員の皆様、そして非会員の皆様にダウンロードしていただく配布形式に変容してまいりました。

しかしながら、様々な情報が日々刻々目まぐるしく飛び交う中、学会活動の報告も年 2 回という頻度では情報価値が低下し、単なる記録としての役割に止まるようになってまいりました。

このような日々変化する情報をフォローできる形での「支部だより」のあり方

について検討し、2024 年度に控えている新ホームページを活用し時節に合わせた提示方式を模索することが運営委員会において承認されました。

この決定を受け現在のような形式の「支部だより」は一旦休止する運びになります。80 号というキリのよい号数での休止になります。これまで「支部だより」を支えていただきました皆様に感謝申し上げたいと存じます。ありがとうございました。新しい形の「支部だより」を皆様にお届けできる日を期待していただきますようお願い申し上げます。

折しも 2023 年は長い長いコロナ禍も漸く下火になり、支部研究大会も全国研究大会も 4 年ぶりの対面開催になりました。現行最後の号がその研究大会をも報告する内容になりましたことは私的に嬉しいことでした。

最後になりますが、皆様ありがとうございました。（竹野 茂）